

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.200 2015.9.1

たくさんの「あなた」に支えられて迎える



創刊号 手書き・B5版
昭和59年8月1日

11・12号 ワープロ原稿
昭和60年7月20日



19号 タイプ印刷
昭和61年6月30日



65号 カラー印刷
平成3年12月20日

100号 100号記念
平成11年1月1日



101号 A4版に
平成11年3月1日

200号



134号 20周年記念
平成16年9月1日

もくじ

- 誌上博物館 ◇ 『あなたと博物館』200号記念インタビュー…………… 2-3
- 博物館TOPICS ◇ 生誕150周年記念「河野齡蔵～博物学者のProfile～」……… 4
- ◇ 企画展「牧水の旅した信濃」…………… 5
- ◇ 各種事業紹介…………… 6-7
- ◇ ガイドコーナーはてんぼく…………… 8

『あなたと博物館』 200号記念インタビュー

今回は、『あなたと博物館』200号記念の特集として、創刊にかかわった、窪田雅之館長にお話を聞きました。

『あなたと博物館』の創刊にまつわる話

Q 『あなたと博物館』は、昭和59年(1984)の8月に創刊して、31年が過ぎ、200号を迎えましたが、率直な気持ちはいかがでしょうか？

A やっと200号を迎えたというより、もう200号になったかという気持ちの方が強いです。最初のうちは、私が編集をしていましたが、途中からは担当を離れてしまっているのもう200号になってしまったかという感覚ですが、200号という節目を迎えられたということは、大変感慨深いです。たまたま、自分が始めたということもあり、よくここまで続けてくれたなと思います。

Q そもそも、どのような経緯で『あなたと博物館』を発行することになったのでしょうか？

A 私が学芸員として博物館に勤務し始めた頃、全国の様々な博物館から送られてくる発行物があり、それを整理をするということが、仕事のひとつでした。若い頃でしたので、他館のことはよく分かりませんでした。松本市の博物館の歴史は古いということを知っていました。それなのに、市民にアピールする、情報を届けるような媒体がないということが気にかかっていた。「模倣は創造の始まり」という思いで、何かをやりたいと上司に相談したのがきっかけです。

Q 創刊号が年度始めの4月ではなく、8月刊行になっているのはどうしてですか？

A 創刊が4月ではないというのは、計画的に準備をして、全てを整えてからというよりも、見切り発車かもしれないんですが、まずはやってみようという気持ちがあったからです。創刊の月が8月で、表紙が七夕人形になっているのは、松本において重要な行事である月遅れの七夕の時期に創刊の照準を合わせたからです。

Q では、『あなたと博物館』という名前の由来はどこにあるのでしょうか？当時は、現在の「松本市立博物館」ではなく「日本民俗資料館」という名称で活動していたはずですが...

A それは、博物館と資料館の機能の違いを意識したからです。当時、博物館の機能としては、収集、整理・保管、調査・研究、教育普及ということが言



窪田館長(左)とインタビュアー高山(右)

われていました。ただ、資料館という名称ですと、調査・研究や教育普及に関しては、若干物足りなさを感じました。当時は、「日本民俗資料館」と名乗っていましたし、附属施設も旧開智学校のみで、松本には「博物館」はありませんでした。大事な博物館というものがあまり認識されていなかったのも、博物館という用語を大事にしたいと思いました。

内部の会議では、『わたしの博物館』というのはいかがでしょうかという人もいました。しかし、市民と博物館を結ぶ架け橋になりたいとの思いから、『あなたと博物館』がよいだろうということになりました。

Q 発行当初の『あなたと博物館』の性格づけはどのようなものだったのですか？

A 研究成果を紹介するというよりも、松本市民の方々へ博物館の催しなどをお伝えする、広報誌という性格でした。発行部数も1,300部と少なく、配布先も市の関係施設のみでした。当時の書類を見ても、「市民へのPR不足を補い、たくさんの市民に博物館へ足を運んで欲しい」と書かれています。とにかく市民の皆様は博物館を知ってもらい、距離を縮めたいと思っていました。

思い起こされること

Q 創刊号を見ると、「はんでんぼく」というワンコーナーがあり、それは現在の『あなたと博物館』のガイドコーナーに引き継がれていますね。はんでんぼくとは、ユリノキの別名ですが、なぜそれがコーナー名になっているのでしょうか？

A かたい紙面になりすぎではいけないということで、当初、「コーヒープレイク」というコーナーを作ろうと思っていました。当時、市役所の中では珍しく、博物館

では朝、レギュラーコーヒーを飲むことが多かったので、「コーヒーブレイク」のような名前にするとホッとできるかなという感覚で。でも、当時の上司から「博物館がコーヒーばかり飲んでいるように思われてしまうじゃないか(笑)」という指摘があり、泣く泣く断念しました。

そんな時に、博物館の北側にユリノキがあることを教えてくれた人がいました。ユリノキの葉が半纏に似ていることから別名がはんでんぼくであることを知り、個人的に気に入ってコーナー名にしたというのが正直なところですよ。



創刊号の「はんでんぼく」コーナー

ちなみに、創刊号の「はんでんぼく」のコーナーには、はんでんぼくの葉を縮小コピーして、それを印刷しました。でも、読者にはそれ自体がよくわからなかったでしょうね。

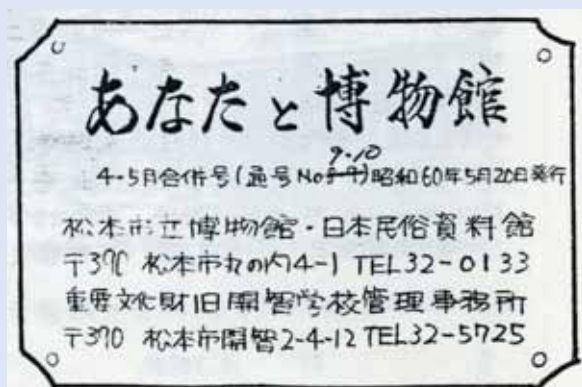


はんでんぼくの葉

Q 現在開催している「松本市立博物館開館110周年記念特別展」の展示の中で、東京国立博物館にも、このはんでんぼくが植えられていると紹介されていますが、当時からそのことはご存じだったのですか？

A いいえ、知りませんでした。最近、担当の学芸員からそのことを聞きました。彼も「東京国立博物館のことを知っていて、『はんでんぼく』という名前にしたものだと思っていた。」と言っていました。『あなたと博物館』200号を前にして、初めて知ったということには何か縁を感じますね。はんでんぼくは、「博物館の木」のようで、今になって良かったなと思っています。

Q 『あなたと博物館』にまつわるエピソードはありますか？



A たくさんありますが、致命的なものに号数を間違ってしまったことがあります。発行当初は、表紙に号数を載せていなかったの、分からなくなってしまうことがあって...

また、写真がキレイに印刷できずに、笑いを誘おうとして掲載したのに、全然伝わらないということもありました。

『あなたと博物館』のこれから

Q 今後の展望のためにうかがいます。今の『あなたと博物館』に必要なものは何だとお考えですか？

A 発行から30年以上も経っているということで、社会も博物館も大きく変化しています。そういう意味で、『あなたと博物館』も変わって当然だと考えています。

発行当時は、博物館の情報を伝える媒体はとんどありませんでしたが、現在はホームページや市役所の様々な情報誌、マスコミのお知らせ欄など、多岐にわたっています。そのなかで、情報がオーバーラップしていたり、『あなたと博物館』が埋没してしまっているような気がします。『あなたと博物館』も脱皮しなきゃいけないですね。

Q 『あなたと博物館』も変革すべき時期にあるということですね？

A そうですね。発行当初は、松本市民への広報誌の性格が強かったわけですが、現在は発行部数も増え、配布先も全国の博物館や資料の寄贈者、博物館のボランティアグループなど様々です。

そうしたなかで、今の『あなたと博物館』は、純粋な広報誌でもないし、活動報告誌・研究誌でもなく、位置づけがあいまいな感じがします。博物館に興味を抱いている広範な人たちに、博物館の職員たちが、「これだけは伝えたい」ということを重点的に書いていくのが大切ではないでしょうか。

また、こちらからの一方的なものではなく、例えば来館者のメッセージを載せてみたり、誌上で議論をしたり、双方向の情報誌にしていくことも考えられます。

いずれにしても、200号を迎え、『あなたと博物館』の性格付けを考え直す時期にきているのではないのでしょうか。

Q では最後に、『あなたと博物館』の読者に向けてメッセージをお願いします。

A できるだけ難しいことを簡単に、楽しく書いて、皆様にメッセージをお伝えしていきますので、ぜひ受けとめてください。また、思いがあれば、どんどん言ってきてもらいたいですね。

生誕 150 周年記念 「河野 齡蔵～博物学者の Profile～」

博物館中興の祖

昭和 13 年 (1938)、人文系資料が主体であった松本記念館（現松本市立博物館）に、ロックガーデンの築造が始められ、さらに山岳室が整備されたことで自然系資料が加わり、総合博物館としての礎が作られました。このロックガーデン築造と山岳室の整備の任に当たったのが、博物館中興の祖に位置づけられる河野 齡蔵です。

慶応元年 (1865) 2 月 8 日、歌人で安曇郡犬飼新田村（現松本市島内）の庄屋であった河野通重の四男として河野 齡蔵は生まれました。今年は、生誕から 150 年となる節目の年です。



松本城二の丸の太鼓門跡南側に築造された松本記念館のロックガーデン

教育者、学者として

河野 齡蔵は明治 16 年 (1883)、東筑摩郡平瀬学校六等訓導に任ぜられたのをふりだしに、40 年以上にわたって教育会で活躍した教育者でした。また、教職に就く傍ら植物研究に打ち込み、その研究のフィールドは近県の山岳はもとより、遠く北海道、千島、樺太にまでおよんでいます。彼の研究の成果は、『信濃博物雑誌』『信濃教育』などの雑誌に掲載され、県下の理科教育の向上に貢献しました。さらに、『高山植物』『日本アルプス登山案内』『高山植物の研究』など多くの著書があり、山の権威、高山植物研究の第一人者と称された人物です。



トガクシシヨウマと日本アルプス登山案内



博学多才の人

教育者、学者とは別の一面を見てみると、実にたくさんの余技を持っていました。例をあげれば、高山植物栽培、盆栽、絵画、和歌、写真撮影などです。しかも、それらが単なる余技で終わるのではなく、高いレベルであったことを、著書や松本市内の中学校で保存されている扁額から知ることができます。河野 齡蔵の余技について、三村邦雄は『信濃教育 第六百三十五号（河野 齡蔵追悼号）』で次のように紹介しています。当時の関係者がどのように河野の余技をとらえていたかをうかがい知ることができます。



『信濃教育 第六百三十五号（河野 齡蔵追悼号）』

…高山植物の培養は繁殖に及び之を以て自生種を保護せんとする主張にまで至ってゐて、或る意味において先生の意に最も叶ひ或時は最も力を入れられた部分であり従って最も堂に入ったものがある。絵画も既に画家の域に達してゐる。此兩者を単なる趣味の技として終わらせず之を利用して普通独力では企図し得ない高山植物図説を完成せられ多年の辛苦が結晶したのである。先生の高山植物図説は図工の絵でなく研究者の絵であるから、実物に近い上に於いて説明的である点に於いて他の到底及ばない處がある。…

生誕 150 周年記念「河野 齡蔵～博物学者の Profile～」

生前の河野 齡蔵は、口先だけではなく、まず行動することで周囲に薫染を与えた寡言実行の人であったといえます。また、花やかなことが嫌いであったという人柄のためか、その功績に比して取り上げられることは今まであまりありませんでした。生誕 150 周年の節目に特別展を開催することは、松本ゆかりの文化人を研究する上で意義ある事と考えます。

本誌面ではその功績のすべてを紹介する事は出来ませんが、展覧会場で河野 齡蔵という人の輪郭—Profile—を捉えていただけたのなら幸いです。

（松本市立博物館 学芸員／一ノ瀬幸治）

生誕 150 周年記念特別展「河野 齡蔵～博物学者の Profile～」

【会 期】 10 月 17 日㊥～ 12 月 6 日㊤

【会 場】 松本市立博物館 2 階特別展示室

連携特別展「河野 齡蔵展」

【会 期】 10 月 17 日㊥～ 12 月 6 日㊤

【会 場】 山と自然博物館 2 階常設展示室

企画展「牧水の旅した信濃」

1 若山牧水という人

わかやまぼくすい

若山牧水は、明治から昭和初期にかけて、一世を風靡した歌人です。

牧水は、本名を繁といい、明治18年(1885)に宮崎県に生まれました。小学校の頃からすでに文学に親しみ、延岡中学校時代には短歌を作りはじめました。彼は20歳の頃から「牧水」を名乗るようになります。なぜ繁が牧水になるのでしょうか。この「牧水」という号は、母親の名「マキ」と幼少より親しんだ「水」というものも愛していた二つのものに由来しています。中学を卒業すると、家業であった医者には継ごうとはせず、早稲田大学英文科に進学しました。

牧水の歌は、自由な感性で、風景をとおして心の内を詠嘆するもので、誰にでもわかりやすいものでした。そのため、多くの人々から受け入れられ、「国民歌人」と呼ばれました。生涯で二度、短期間の勤めに出たことがあります。基本的に定職に就くことなく、歌人として生きていく道を選びました。スター歌人であった牧水ですが、その人生は短く、44歳の若さでこの世を去りました。しかし、早世であったがゆえに、その人生は濃く、輝きを放っているようにも思えます。

われ二十六歳歌をつくりて飯に代ふ
世にもわびしきなりはひをする

2 牧水の愛したものー原動力は酒と旅ー

牧水は歌を大変に愛しましたが、酒と旅もまた同様に愛しました。

牧水の父母はともに酒豪で、牧水は生まれて間もない頃から酒を舐めていたとも言われます。大学に進学し、上京するとともに、一人前の酒飲みになったようです。哀しい恋愛ゆえに酒におぼれたこともあります。心から酒を楽しみました。ひとり酒を好みましたが、集まった友人たちとにぎやかに飲むことも大好きでした。ある時は、喉につかえるほど酒をのみ、レールの上で寝てしまい、電車を止めてしまった程で、仲間内では「電留朝臣」というあだ名で冷やかされたといえます。また、郷里に帰った時、母親に酒をやめたいと相談したところ、母からは「お前の体は酒で焼き固めてあるからやめてはいかんぞ」と答えが返ってきて、素直に言うことを聞いたそうです。

いずれの話もどこまでが事実か、どこからが誇張かは分かりませんが、牧水がいかに酒を愛したかを知る面白いエピソードです。

牧水は生涯で300首程の酒の歌を詠み、「酒仙」・

「酒聖」とも呼ばれました。しかし、牧水の過ぎる酒は体を蝕み、死因は「急性腸胃炎兼肝臓硬変症」でした。なんとも牧水らしい最期でした。

それほどにうまきかと人のとひたらば
なんと答へむこの酒の味

牧水は旅人でもありました。短い人生の中で、日本各地に遊び、さらには朝鮮にまで渡っています。牧水の仲間によれば、牧水の一生における旅の日数は、概算で1,674日になるといいます。これは、年数にすると、4年半余りになり、生涯の約9分の1を占めます。とりわけ、牧水が学校を卒業し社会人になってからは、5分の1は旅に暮らした計算になります。

44年の生涯のなかで、これほどの日数を旅にあてたことは、驚くべきことです。牧水には旅のなかで作った歌が大変に多く、歌集に収録されている全作品約6,900首のうち、旅の中でつくられたものは、3分の1以上にもほります。牧水と旅は切っても切れない関係であったといえます。それゆえ、牧水はいにしえの旅人、西行や芭蕉とも並び称されています。

いざ行かむ行きてまだ見ぬ山を見む
このさびしさに君は耐ふるや

酒をやめることができなかったように、牧水は旅をせずにはいられなかったのです。愛する歌をつくるうえで、酒と旅は原動力であったといっても過言ではないでしょう。

3 牧水と信濃

牧水は信濃の山水を非常に好み、しばしば出かけています。その範囲は、軽井沢・小諸・塩尻・佐久・長野・松本・辰野・大町・木曽・松代・小海などさまざまです。

では、牧水はここ信濃にどのような足跡をのこしたのでしょうか。当館の企画展「牧水の旅した信濃」では、妻喜志子・中村柊花・重田行歌らの信濃歌人との関係を中心にしながら、牧水と信濃とのかかわりを紹介していきます。

「国民歌人」若山牧水の直筆資料に親しむ絶好の機会ですので、ぜひご来館ください。

(窪田空穂記念館 学芸員／高山直樹)

企画展「牧水の旅した信濃」

[会 期] 9月12日(土)～11月29日(日) ※月曜日休館(休日の場合は翌日休館)

[会 場] 窪田空穂記念館会議室

展覧会が目白押し

博物館の秋



秋季企画展 弥生の始まり～松本の弥生時代～

「弥生時代の始まり」は「稲作の開始」と定義され、松本の弥生時代は、九州北部に比べ 500 年も遅く始まりました。しかし、九州から松本まで、弥生の新しい文化が伝わるのに 500 年も要したというわけではありません。例えば、東北地方では松本より約 100 年も早い水田の跡が見つかっています。また、松本でも、縄文時代晩期の遺跡から、弥生文化の影響を受けた土器や石器が出土しています。つまり、松本に最初に弥生文化の技術が伝わった頃、縄文人たちは、土器や石器の技術は取り入れましたが、稲作は取り入れなかった（もしくはできなかった）と考えられています。

そこで、本展では、縄文時代晩期の石行遺跡（寿）で出土した弥生文化の影響を受けた石器や、弥生時代の境窪遺跡（神林）で出土した食料栽培の痕跡が残る土器、出川南遺跡の骨蔵器として利用された土偶形容器などを展示し、新たな時代「弥生」を迎えた、当時の人々の生活を紹介します。



出川南遺跡出土「土偶形容器」

会 期 9月19日(土)～11月29日(日)
 会 場 松本市立考古博物館第2展示室
 料 金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)
 問 合 せ 考古博物館へ(☎0263-86-4710)

となりの国の美しいものたち「朝鮮と台湾の民芸」

大正3年(1914)李朝の小さな壺の美しさに魅せられた柳宗悦^{むねよし}は、今まで注目されることのなかった朝鮮陶磁をはじめとする朝鮮民芸の美を広めていきます。

松本民芸館の創館者丸山太郎もまた李朝の民芸品に心を惹かれ、昭和48年(1973)に、多年の夢であった朝鮮民芸を訪ねる旅へでかけます。「ホテルの窓から見おろしたソウルの街が、朝日にキラキラと輝き、南大門がすぐ眼下に見え、もう私の心はうきうきとはずんでしまった」太郎64歳。(著書『松本そだち』より)

柳はまた、台湾の工芸品、特に織物について、「現



李朝十二角虎足菊花膳

代日本の第一流の染色家の何人がこれほどの物を作り得るだろうか。断じて何人も作り得ないことを私は確信することが出来る」(柳宗悦全集第15巻)と述べています。



パイワン族の胸飾り

丸山太郎も2度にわたり台湾を訪問し、台湾の生活用品を愛し、多くの民芸品を蒐集しました。

さまざまな歴史や思いが重なる朝鮮と台湾の豊かで美しい民芸品の数々から、柳や丸山太郎の優しいまなざしと、彼らに対する深い敬愛の念を感じていただけたら幸いです。

会 期 9月1日(火)～11月1日(日)
 会 場 松本民芸館
 料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
 問 合 せ 松本民芸館へ(☎0263-33-1569)

パネル展 松本の建築と古民家建築展

松本市歴史の里では、歴史の里建築講座「松本のたてもの 2015」と題し、松本の古民家に関するパネル展「松本の建築と古民家建築展」を行います。



本棟造りの建物(窪田空穂生家)

歴史の里建築講座は、昨年度から行っている講座であり、今回は当館に移築されている県宝旧長野地方裁判

所松本支部庁舎に焦点を当て、市内に残る近代建築を紹介する展示と講演会を開催しました。

今年度は、長野県中・南部に見られる本棟造りを中心に、写真パネルを用いながら紹介し、古民家に関した市内一級建築士による講演会も行います。ぜひ足をお運びください。

会 期 9月26日(土)～12月23日(水・祝)
会 場 松本市歴史の里
料 金 通常観覧料(大人400円、中学生以下無料)
問 合 せ 松本市歴史の里へ(☎0263-47-4515)

匠の技 ―木に命を吹き込む建築模型展―

今回、重要文化財馬場家住宅では、「匠の技―木に命を吹き込む建築模型展―」を開催します。野村秀康さんは、長年にわたり建築関係の仕事に従事され、退職後、趣味で始めた木工模型の制作に打ち込んでいます。現地での実物の目測や資料から図面を制作し、杉やヒノキの端材



1/20 スケール木製、2012 年制作

から1枚1枚丁寧に削り出された瓦や柱など、実物の構造に沿った精密な木工再現が持ち味です。

市域に暮らし、生きがいを持ち続け、制作活動に勤しむ野村さん。その活動は松本市が推進している健康寿命延伸として標榜している「美しく生きる」ことにも繋がっています。この機会にぜひご覧ください。

会 期 10月3日(土)～11月3日(火・祝)
出品者 野村秀康氏(元大工、松本市中山在住)
会 場 重要文化財馬場家住宅
料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
主な出品作品 (1)馬場家住宅、水車小屋、木馬
(2)工女宿宝来屋
(3)松本電鉄上高地線旧新村駅舎
(4)奈良井宿木曾の大橋
(5)猿橋(大月市)など
問 合 せ 重要文化財馬場家住宅へ(☎0263-85-5070)

企画展 旧制高校を描いたはがき展

明治19年(1886)から昭和25年(1950)まで存在した旧制高等学校では、記念祭などの学校行事が行われるたびに絵はがきを発行していました。そのほとんどが、学生たち自身によるデザインです。カラフルで多種多様な絵はがきから、当時の学生たちの芸術センスを感じてください。また、彼ら自身によって描かれた当時の学生の様子にも注目です。授業風景やストーム、まじめな姿、バンカラな姿、ふり幅の大きい旧制高等学校生の様々な姿を伝えています。絵はがきを扱った展示は平成12年(2000)にも行われましたが、今回は以前紹介されなかった学校の絵はがきなど、新たな資料も加わり、より広い地域の、多彩な作品をご覧ください。



旧制松本高校絵はがき

会 期 10月10日(土)～12月6日(日)
会 場 旧制高等学校記念館 ギャラリー
料 金 無料(常設展示は有料)
問 合 せ 旧制高等学校記念館へ(☎0263-35-6226)

9月21日は 松本市博物館の日 今年9月21日(月・祝)！松本まるごと博物館全館が無料開館！

前身の「明治三十七、八年戦役記念館」の開館を記念して、松本市立博物館と分館14館を無料開放し、クイズラリーなど特設イベントを行います。
各館の特設イベントにご参加の方には、先着順で記念品を配布します。(イベント詳細は、まる博HP、市HPへアクセスしてください。)

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

子規忌展

郷土史学の草分け、歌人・文化人として知られる胡桃沢勘内にゆかりの深い正岡子規の命日に、関係品を展示します。
今回は「明治の広重」と呼ばれ、『東京名勝図絵』が知られる小林清親の作品を展示し、清親と松本、そして勘内との交流について紹介します。

会 期 9月12日(土)～9月23日(水・祝)
会 場 松本市立博物館 1階常設展示室ロビー
料 金 通常観覧料 (大人200円、小中学生100円)



第6回 復活 話をきく会

昭和初期に、胡桃沢勘内らが著名な識者を招いて松本で開催した「話をきく会」にちなみ、識者を招いて松本の文化や先人の営みについて話を聞く催しです。今年は、没後100年となる版画家・画家の小林清親と松本の関わりを講師に語っていただきます。

日 時 9月19日(土)午後2時～午後3時30分
会 場 松本市立博物館 2階講堂
定 員 60人
料 金 通常観覧料 (大人200円、小中学生100円)
講 師 岡本祐美氏 (北海道教育大学教授・美術史)
演 題 「松本と小林清親」
申 込 み 電話で松本市立博物館へ

考古博物館から ☎0263-86-4710

縄文土器づくり講座

粘土で形をつくり、野焼きをして完成させます。今年は、「縄文」の由来となった縄目模様をつける道具も、自分で作ります。

日 時 成形:10月18日(日)
野焼き:11月15日(日)※雨天時は延期
いずれも午前9時から正午まで

会 場 考古博物館 2階体験学習室ほか
定 員 20名(先着)
対 象 小学校4年生以上で、両日ともご参加いただける方
料 金 800円
そ の 他 服装は汚れてもよいものをご準備ください
申 込 み 電話で考古博物館へ



松本民芸館から ☎0263-33-1569

SPレコードコンサート

蔵づくりの民芸館で、懐かしい音色をゆったりと楽しみませんか。

日 時 9月19日(土)午後1時30分～3時
定 員 30名
料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)
申 込 み 電話で松本民芸館へ



窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂生家囲碁教室

日 時 10月17日(土)午前10時～正午
会 場 窪田空穂生家
対 象 小中学生
料 金 無料
指 導 者 藤澤一就八段
申 込 み 当日までに電話等で窪田空穂記念館へ(当日受付可)



時計博物館から ☎0263-36-0969

企画展 平成27年度國學院大學 学びへの誘い 明治国家と法制官僚

～「明治国家建設のグランドデザイナー」井上毅の事績を辿る～

会 期 9月19日(土)～9月27日(日)
※9月21日(月)は松本市博物館の日のため、臨時開館
会 場 時計博物館 3階企画展示室
料 金 入場無料
※1,2階常設展は通常観覧料が必要

学びへの誘い関連事業 講演会「井上毅とその周辺」

日 時 9月19日(土)午後2時～3時30分
会 場 本町ホール(松本市時計博物館4階)
料 金 無料
講 師 柴田紳一氏 (國學院大學 文学部准教授)
申 込 み 事前申込み制。時計博物館へ

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

日 時 9月27日(日)
午前10時～正午
会 場 馬場家住宅
担 当 松風の会(表千家)
料 金 通常観覧料



布ぞうり作り体験教室

日 時 9月26日(土)
午前10時～午後3時
会 場 馬場家住宅主屋
料 金 1,800円
定 員 10名
申 込 み 電話で馬場家住宅へ



お月見コンサート

日 時 9月27日(日)午後6時～7時30分(予定)
会 場 馬場家住宅主屋
内 容 民謡、謡曲、民謡舞踊ほか
料 金 無料
申 込 み 不要



企画展「遺産の魅力」

名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センターと松本市教育委員会との間で行われている、文化・学術活動及び地域貢献に係る連携に基づく活動研究の成果をパネルで紹介いたします。

会 期 8月29日(土)～9月23日(水・祝)
会 場 馬場家住宅主屋
料 金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

四賀化石館から ☎0263-64-3900

化石教室「レプリカ作りコース」

アンモナイトや三葉虫、サメの歯が作れます。

日 時 10月31日(土)
①午前9時～11時30分
②午後1時～3時30分
会 場 四賀化石館2階学習室
定 員 20名
対 象 5歳以上の親子
料 金 一人500円
申 込 み 前日までに電話で四賀化石館へ



あとがき

『あなたと博物館』200号の編集を担当しましたが、本誌と同年ということもあり、縁を感じながらの作業となりました。今後も、『あなたと博物館』とともに、博物館を盛り上げていきたいと思ひます。

(N.T)

あなたと博物館 No.200

発行年月日/平成27年9月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp



印刷 川越印刷株式会社